コース4

武蔵野市役所～西武柳沢駅コース

移動距離　約3.3km
移動時間（徒歩）　約60分（滞在時間は含まれておりません）

スタート　武蔵野市役所前

1. 武蔵野市陸上競技場
   【説明：コース1の12】
2. NTT武蔵野研究開発センタ（外から見学）
   【説明：コース1の11】
3. 都営武蔵野アパート
   【説明：コース1の10】
4. 都立公園拡張予定地・中島飛行機変電室跡
   【説明：コース1の9】
5. 都立武蔵野中央公園
   【説明：コース1の8】
6. 関前橋
7. 東伏見稲荷神社
8. しじゅうから第二公園
9. 都営柳沢住宅
10. 西東京市・柳沢公民館

ゴール　西武柳沢駅前

もう一つの引き込み線跡

⑥関前橋

中島飛行機武蔵製作所には、現在のJR中央線からの引き込み線以外に、中島航空金属田無製造所（現在の西東京市谷戸にあり、現・住友重機械工業田無工場）とを結ぶもうひとつの引き込み線（軽便鉄道）もあった。これは陸軍鉄道部隊が敷設したといわれている。中島航空金属田無製造所までを結ぶ引き込み線は、中島飛行機武蔵製作所から関前橋のところで現在の伏見通りを横切り、青梅街道の西武新宿線ガードの東側を通って谷戸まで続いていた。当時を物語るものとして、青梅街道が西武新宿線をくぐる大ガードの東側に小さなガードがあり、これが軽便鉄道のためにつくられたものとして知られている。

中島飛行機武蔵製作所・殉職者慰霊碑と旗の掲揚塔

⑦東伏見稲荷神社

1929（昭和4）年、関東大震災で荒廃した東京の復興を願い、京都・伏見稲荷神社を分祀（ぶんし）したのが由来。同神社と中島飛行機武蔵製作所との関係は深く、「修養団」の活動を活発に展開していた中島飛行機は、修練道場を同神社の境内に設置していた。戦後も修練道場のコンクリートの台座が残っていたが、現存しない。唯一の痕跡は、社務所脇に、中島飛行機が寄贈した旗の掲揚塔がある。また、境内の南面には、1964（昭和39）年、正門跡にあった中島飛行機武蔵製作所・殉職者慰霊碑が遷座された。右側に建碑の由来、そして左側に殉職者名簿があるが名簿にある氏名のすべてが空襲の犠牲者ではない。

「原爆模擬爆弾」落下地

⑧しじゅうから第二公園

1945（昭和20）年7月末から8月初旬、アメリカ軍は、原爆投下の訓練ならびにデータ収集のため、日本各地に約50発の「原爆模擬爆弾」を投下した。長崎に投下された「ファットマン」と同形、黄色に塗装された外観から「パンプキン（かぼちゃ）爆弾」と呼ばれていた。7月29日、中島飛行機武蔵製作所を目標に投下された爆弾は目標をはずれ、現在の都営柳沢住宅に隣接する「しじゅうから第二公園」付近に落下した。強力な爆風が生じ、地表にはクレーターが生じた。畑仕事をしていた女性と子ども、合計3名が犠牲となった。

中島飛行機社宅

⑨都営柳沢住宅

最盛時、約5万人が24時間操業で働いていたといわれる中島飛行機武蔵製作所の社宅の一つがここにあった。当時従業員は都内各地から、また工場周辺の社宅、寮から通勤していた。特に、工場の北に位置する現在の西東京市（当時の保谷町・田無町）には、多数の社宅（立野住宅、桶久保住宅、下柳沢住宅、北原住宅など）が建設され、現在それらの多くは都営住宅などに転用されている。これらの住宅にも、爆弾が落下し、犠牲者があった。

250キロ爆弾不発弾破片

⑩西東京市・柳沢公民館

都営柳沢住宅の一角、西武柳沢駅南口前に、公民館および図書館がある。そのエントランスに、中島飛行機武蔵製作所の写真パネルと、250キロ爆弾の不発弾を処理した大きな破片が展示されている